

重粒子線治療を知ってほしい



群馬大学重粒子線医学センター
副センター長

大野 達也 さん

がんと戦うために

重粒子線治療は決して万能ではありませんが、今までのがん治療になかった魅力があるのも確かです。例えば、骨肉腫などの骨や軟部組織の腫瘍が、手術できない部位に発生した場合は、他に有効な治療手段がないことも多くありました。しかし、重粒子線治療を受けることで助かる可能性が大きくなりました。昨年3月からことし9月末までの当センターの実績は延べ214人。この治療を有効に活用し

てもらえるよう、より多くの人に知ってもらいたいと思います。

これまでの治療で最も多かったのは前立腺がんですが、肺や肝臓など呼吸で動くようながんにも、息を吐いた瞬間だけビームが当たるような仕組みになつており適用できます。その一方で、胃や腸など臓器が不規則に動いて狙いが定まらないがんには重粒子線治療は不向きです。また、血液のがんや広い範囲に転移した状況では治療が適応できません。

他の治療との併用

重粒子線治療は局所のがんを治療する方法です。手術できない部位でも治療できる場合がある一方で、がんが腸管が近すぎて適応できない場合があります。また、全身に転移のリスクがある場合は、抗がん剤治療を併用したほうがよいこともあります。このように、病状によっては重粒子線治療単独ではなく、外科手

術や薬物療法など他の治療法と併用して、それぞれの長所を生かし短所を補いながらの治療を検討する必要があります。国内で唯一総合病院に併設されている当センターは、こうした総合的な治療を行うことができるメリットがあります。

また、当センターでは週1回、全員で治療プランを討議するカンファレンスを行っています。患者さん一人一人に最適な治療プランを導き出すために、討議は数時間に及ぶこともあります。医師や看護師、放射線診療技師、医学物理士などそれぞれが持つ知識・技術を結集し、チームワークよく全力で患者さんをサポートしています。

日々のチェックも大切

がんは早期発見・早期治療が大原則です。がんは発見が早ければ治る可能性も高くなりますし、治療の選択肢が増える場合もあります。各種がん検診を受けて自己チェックを欠かさないことが大切です。

Pickup

大切な命です 定期的なチェックを心掛けて

問い合わせは 健康増進課 ☎220-5783

がんは早期発見・早期治療が重要です。放っておくと取り返しが付かなくなることにも。自分自身や大切な家族のためにも、各医療機関などで必ず検診を受けてください。

本市では、各種がん検診の助成を行っています。各世帯に郵送された受診シールを持って受診しましょう。本年度の各検診の受診期間は2月末日まで。期限が近づくと混雑しますので、早めに受診することをお勧めします。詳しくは健康のしおりをご覧ください。

対象のがん検診＝胃がん、大腸がん、子宮がん、

乳がん（甲状腺）、前立腺がん、胸部（結核・肺がん）検診など

■子宮がん・乳がん（甲状腺）の集団検診

日時＝1月22日(日)・29日(日)、午後1時～2時

会場＝前橋保健センター

対象＝本年度検診対象者で未受診の女性〈①子宮がん検診〉20歳以上の人〈②乳がん（甲状腺）検診〉40歳以上の人

費用＝①は800円②は1,500円

申し込み＝①は当日会場へ直接②は12月12日(月)～1月20日(金)に健康増進課へ

重粒子線治療の流れ

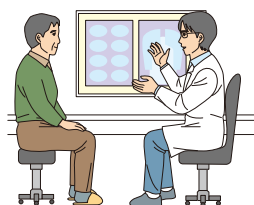
治療の流れを

Step.1 から Step.5
の順で解説します。

Step.1

かかりつけ医の診察・紹介

かかりつけ医の診察を受けてください。重粒子線治療を受けるには、かかりつけ医の紹介と受診予約が必要です。



Step.2

センターでの診察・検査

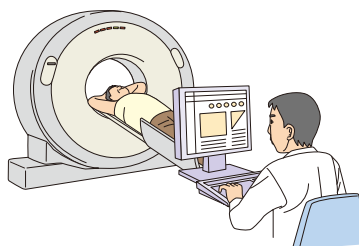
病状確認や治療が適応できるかを判断。医師から治療の効果・副作用・流れ・費用などの説明を受けます。



Step.3

治療準備

体の固定具の作成やCT撮影などを行い、治療プランを作成します。

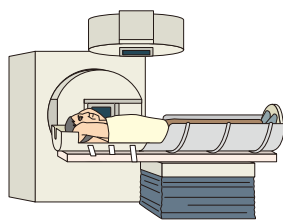


期間＝約1～2週間

Step.4

照射治療

1日1回で数分間照射します。(部位や症状によって回数が異なります。)



期間＝約1日～5週間

Step.5

経過観察

所定のスケジュールで検査などを行い、経過を観察します。



治療の流れ

治療の流れは上図のとおり。まずはかかりつけ医の診察を受け、センターへ紹介してもらう必要があります。なお、重粒子線治療が適当でないと診断されることもあります。

センターでの治療期間は、平均3週間です。前立腺がんでは通院、その他は基本的に入院します。重粒子線の照射は1日1回で、数分程度(治療の位置を決める時間を含めると約30分)。これを前立腺がんは16回、肺がんや肝臓がんは4回と、部位や症状によって複数回行います。照射中に痛みや不快感はありません。

治療終了後は、副作用の状態によって入院が必要な場合もありますが、ほとんどは数日で退院が可能です。その後も一定のスケジュールで経過を観察する必要があります。

Interview



群馬大学重粒子線
医学センター
看護師

北田 陽子さん

患者さんが少しでもリラックスして治療に臨めるように、患者さんの気持ちを一番考えてケアを行っています。

大切にしていることは、患者さんの生活スタイルなどを理解し、それらに合ったケアを心掛けること。そのために患者さんとのコミュニケーションは欠かせません。不安な気持ちや医師に聞きづらいこと、治療のことなど、何でも話をしてもらうことで、少しでも患者さんの安心につながればと思っています。